

# 英語民間試験見送り

## 来春「対応間に合わず」

### 文科相 24年度めど抜本見直し



大学入学共通テストへの英語民間検定試験の導入延期について記者会見する萩生田文科相。1日午前、文科省。

**英語民間検定試験** 大学入試センター試験の後継として、2020年度に始まる大学入学共通テストの英語で、「読む・聞く・書く・話す」の4技能を問うため、英検やGTECなど6団体7種類の試験を活用する予定だった。計画では20年4～12月の間に、最大2回受験。大学入試センターが発行する「共通ID」で成績を管理し、大学側に提供する仕組みだった。試験会場は都市部中心となり、高額な受験料の試験もあるため、地域格差や経済格差への対応が不十分として、全国高等学校長協会は導入延期を要請していた。

#### 英語民間検定試験の経過

2014年12月	中教審が20年度から新たな学力評価テストの実施を目指し、英語では民間検定試験活用も検討と答申
17年7月	文部科学省が新テスト「大学入学共通テスト」の実施方針。民間試験利用へ
18年3月26日	大学入試センターが7団体8種類の民間試験を認定
19年7月2日	TOEICの実施団体が参加取りやめを発表
9月10日	全国高等学校長協会が、導入延期を求める要望書
19日	日本私立中学高等学校連合会が、予定通り実施を求める要望書
10月1日	萩生田光一文科科学相が「初年度は精度向上期間」と発言
24日	萩生田氏がテレビ番組で「自分の身の丈に合わせて頑張ってもらえば」と発言。その後謝罪し、撤回
11月1日	萩生田氏が20年4月からの導入見送りを発表

萩生田光一文科科学相は1日の閣議後記者会見で、大学入学共通テストへの英語民間検定試験の導入について「自信を持って受験生に薦められるシステムになっていない」と述べ、2020年度は見送ると発表した。経済格差や地域格差を広げるなどの批判に対し、十分な対応策が間に合わない」と判断したことが主な理由とした。

是非も含め1年をめどに仕組みの抜本的な見直しを議論。その上で24年度をめどに新たな制度の導入を検討するとした。大学入学共通テストは20年1月の実施が最後となる大学入試センター試験の後継で、英語への民間試験の導入は目玉の一つだった。見直しが行われるまでの間、共通テストの英語は従来のセンター試験と同様、大学入試センターが作成す

る試験問題のみで実施する。

民間試験には、経済格差や地域格差を広げるとの懸念から、高校現場や野党に加え、自民党内からも延期論が噴出。萩生田氏がテレビ番組で「身の丈に合わせて頑張る」とした発言への批判も収まらなかったが、萩生田氏は「判断に影響していない」と述べた。

見直しの理由としては、格差の問題を挙げたほか、試験実施を民間団体に委ねたことで文科省が間接的にしか関わらず対応が遅れたとし、構造的な問題があったとの考えも示した。全国高等学校長協会などは、へき地や離島で暮らしていたり、家計が苦しかったりする受験生への救済策が乏しいなどとして、導入延期を求めている。萩生田氏の「身の丈」発言もあり、批判が拡大した。

#### 大学入試センター

##### ID受け付け停止

大学入試センターは受験に必要な「共通ID」の申し込み受け付けを1日午前から開始予定だったが、萩生田氏は「受け付けを停止した。発行はしない」とした。